

105-262

問題文

提案した薬物それぞれの作用機序として正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 転写因子sterol-responsive element binding protein (SREBP)-2の活性化を介して、LDL(低密度リポタンパク質)受容体の合成を促進する。
2. コレステロールトランスポーター(NPC1L1)を阻害することで小腸における食物由来のコレステロール吸収を抑制する。
3. SREBP-1cを抑制し、肝臓でのTG合成を抑制する。
4. リソソームにおけるLDL受容体の分解を抑制し、LDL受容体の細胞膜へのリサイクリングを増加させる。
5. ペルオキシソーム増殖剤応答性受容体(PPAR α)を刺激することでTGの加水分解を促進させる。

解答

問262 : 1, 3問263 : 2, 4

解説

問262

問 263 と合わせて解説します。

問263

問 262 について

選択肢 1 は妥当な記述です。

エゼチミブ（ゼチーア）は、小腸コレステロールトランスポーター阻害薬です。小腸壁細胞に存在するタンパク質（NPC1L1＝Niemann-Pick C1 like 1）を阻害することにより、コレステロールの吸収を選択的に阻害する薬です。

選択肢 2 ですが

イコサペント酸エチル（エパデール）は、中性脂肪を減らす働きが期待される脂質異常症治療薬です。コレステロールのコントロール不十分に用いるのは不適切と考えられます。

選択肢 3 は妥当な記述です。

エボロクマブ（レパース）は、ヒト抗 PCSK9 モノクローナル抗体製剤です。LDL 受容体分解促進タンパク質である PCSK9 に高い親和性を示し、PCSK9 の LDL 受容体への結合を阻害します。この結果、LDL 受容体の分解を抑制します。

選択肢 4 ですが

シンバスタチンは、既に処方されているロスバスタチンと同じくスタチンです。作用機序が重複するため、不適切と考えられます。

選択肢 5 ですが

ベザフィブラートは、フィブラート系です。核内受容体である PPAR α に結合することにより、肝臓での中性脂肪合成を抑制すると共に、リポタンパク質リパーゼを活性化させることで、血中の中性脂肪値を低下させます。コレステロールのコントロール不十分に用いるのは不適切と考えられます。

以上より

問 262 の正解は 1,3 です。

問 263 の正解は 2,4 です。